

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境性能評価用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オープンレジデンス中村区太閤通三丁目	階数	地上15F
建設地	名古屋市千種区太閤通三丁目27-1、他6筆、上米野町一丁目32、他2筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年5月20日
敷地面積	745 m ²	作成者	
建築面積	386 m ²	確認日	2021年5月20日
延床面積	4,311 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>= BEE1.0</p> <p>★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C</p>	<p>標準計算</p> <table border="1"> <tr><td>①参照値</td><td>100%</td></tr> <tr><td>②建築物の取組み</td><td>62%</td></tr> <tr><td>③上記+②以外の</td><td>62%</td></tr> <tr><td>④上記+</td><td>62%</td></tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	62%	③上記+②以外の	62%	④上記+	62%	
①参照値	100%									
②建築物の取組み	62%									
③上記+②以外の	62%									
④上記+	62%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.1</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 1.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.6</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア=3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	<p>潜熱回収型ガス瞬間給湯器、節湯型水栓などを採用した、エコ住宅をコンセプトとしています。</p>	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
24時間換気を採用し、シックハウス対策を行いました。	劣化対策等級3としています。	街並みに調和するよう、外壁等の素材、色を決定しました。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
潜熱回収型ガス瞬間給湯器を採用し、熱効率の良いものになりました。	節水型便器を採用しました。	駐輪台数を多く設置しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される




重点項目スコア・結果シート

(仮称)オープンレジデンシア中村区太閤通三丁目

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.6	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.6	
2. 自然共生	評価点 = 1.3	
3. 循環型社会	評価点 = 2.6	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。